

## スリランカ難民に対する助成策等についての要望

日本・スリランカ友好議員連盟

会 長 野呂田芳成殿

事務局長 小淵優子殿

スリランカの恒久的平和を求める

研究者・NGO有志一同

スリランカの文化・社会研究並びにスリランカにおける平和・人道問題に関わってきたわたくしたち研究者・NGOメンバーは、内戦終結後、多くのひとびとが難民生活を余儀なくされるに至ったことを深く憂慮しています。こうした事態に対して、日本政府が以下のような事柄につき必要な手立てをとるよう促していただくことを要望いたします。

・日本政府が行う難民助成に関して、一定期間、支援チームを避難民キャンプへ派遣し、援助物資の供給状況や人権侵害の有無などにつき情報収集を行うような手立てを講ずる。

・LTTE の戦闘員を探すため、戦闘地域から逃れてきた人々を恣意的に拘束したりしないよう、国内避難民の移動の自由を認めることをスリランカ政府に求める。

・紛争後の混乱の中で人権が損なわれることのないよう、スリランカ国内外の報道機関に取材・報道の自由が確保されることをスリランカ政府に求める。

・内戦の結果生じた難民保護などの人道問題に対して十分な活動を行えるよう、これまで活動をしてきたNGOメンバーの滞在延長、新規活動要員の円滑なビザ取得などにつき、スリランカ政府に要請する。

サンフランシスコ講和会議で、スリランカ政府代表団の J. R. ジャヤワルダナ団長が日本に対する賠償請求権を放棄し国際社会への復帰を暖かく迎えた言葉を、いま、スリランカの紛争当事者たち、そして世界の全てのひとびとに送ります。

～「憎しみは憎しみによっては止まず、ただ愛によってのみ止む」～

2009年6月30日

スリランカの恒久的平和を求める研究者・NGO有志一同

- ・澁谷 利雄 (和光大学現代人間学部教授)
  - ・今尾 宏子 (パルシック)
  - ・岩野 晶子 (歯科医師)
  - ・岡本 弘子 (日本スリランカ友の会)
  - ・川島 耕司 (国土舘大学政経学部教授)
  - ・高桑 史子 (首都大学東京人文科学研究科)
  - ・徳留 由美 (非暴力平和隊スリランカ活動元メンバー)
  - ・長尾比呂未 (地球の子ども新聞)
  - ・早川恵里子 (和光大学社会文化総合研究所)
- 他1名

- ・特定非営利活動法人 国際平和協力センター (IPAC)  
代表 池上 善晴  
〒193-0826 東京都八王子市元八王子町3-2914-4  
電話：080-3515-3710、FAX：042-663-3223

- ・国際交流 NGO ピースボート  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1 B1  
電話：03-3362-6307 FAX：03-3362-6309

- ・ヒューマン・ライツ・ウォッチ  
東京ディレクター 土井 香苗  
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1  
明治大学アカデミーコモン7階 4A  
電話：03-5282-5160 Fax：03-5282-5161

- ・非暴力平和隊・日本 (NPJ)  
共同代表 君島 東彦、大畑 豊  
〒101-00631 東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル1F A室  
電話：080-6747-4157 FAX：03-3255-5910